

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

会議名称	令和7年度保土ヶ谷支援学校 第2回 学校運営協議会		
開催日時	令和7年9月26日(金)		
開催場所	保土ヶ谷支援学校 会議室		
出席者	運営協議会委員8名(本校校長を含む)		
次回開催予定	令和7年12月10日(水)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 中葉 哲郎 電話 045-714-0126		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>1 会長挨拶</p> <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレハブ校舎の新築工事は予定より遅れ、来月からようやく始まる。3月に引き渡し予定だが、予定通りになるか不確か。地域の特別支援教育を必要とする児童生徒のためのプレハブ工事である。 ・11月11～14日で「ほどがやフェスティバル」を実施。初めてのことで職員も手探り。 <p>3 資料確認、資料・流れの確認</p> <p>4 議題(報告・説明)</p> <p>①「学校評価部会」学校年間目標中間報告 (副校長)</p> <p>全体まとめ(資料2)は、各学部Gからの内容をまとめたもの。一目で取り組みや課題が分かるように示している。</p> <p>(会長)</p> <p>資料2によると、全体的な傾向としては○(評価基準通りと良好に進んでいる)と◎(思ったよりも進んでいるところ)は多く、△(未達成)もあるがそれぞれ概ね計画通り進んでいるということが分かる。</p> <p>(小学部)(A教頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で校外学習の機会が狭まったことで、学習の積み上げが課題になっている。校外学習の系統性を引き続き検討し、次年度の計画に生かしたい。 ・国語・算数のラーニングマップを職員に配付。授業改善の意識が高まった。 ・業務上の課題を整理できたが、多様な働き方、時短勤務職員がいることで話し合いの時間が少ない現状がある。改善に向けて引き続き取り組む。 <p>(中学部)(学部リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでいる。性教育に着目し発達段階に応じた命を大切にする授業を進めている。 ・アセスメントに応じた授業づくりはこれからも進めていく。 ・進路研修に力を入れ、高等部Lから進路に関する話を聞き意見交換する等職員の関心が高まった。 <p>(高等部)(B教頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね達成。オフィス改善によりソフト面でも職員のコミュニケーションが円滑になり、生徒への指導の充実につながっている。△の項目は「さん付け呼称」の達成ができていないため。さん付け呼称から始まる指導は今後につながると考えている。 <p>(舞岡分教室)(B教頭)</p>		

- ・概ね達成。舞岡高校 50 周年、本校も 50 周年。舞岡高校の記念式典にもメッセージビデオや記念品作成で関わった。
- ・分教室でもオフィス改善が行われ、高等部と同様、ハード面だけでなく生徒への指導の充実などソフト面でもよい効果が見られた。

(横浜平沼分教室) (分教室リーダー)

- ・地域との協働では、岡野公園、平沼高校内の清掃など関係職員と一緒にいき、生徒にとってよい経験となった。
- ・人権では、生徒への言葉のかけ方等の研修を行った。生徒の実態が変わってきていることも共有できた。

(管理運営 G) (グループリーダー 以下、「GL」)

- ・「いのちを守る教育」では、避難訓練、シェイクアウト訓練を実施した。児童生徒の指導が優先となり、教員のシェイクアウトが不十分となる課題がある。
- ・7月31日に環境整備事業として保護者やボランティアと協力し、教室美化を行った。

(教育企画 G) (GL)

- ・教育課程、日課表の見直しを行うために、各学部で大切にしたいこと、学びの連続性、その他の課題を出し合いながら検討を進めている。
- ・学校説明会を各学部で行った。特に中 2 対象説明会では、定員よりも多くの申込みがあり、定員を広げて柔軟に対応した。

(教育支援 G) (GL)

- ・授業に生かせる ICT の整備、サマーセミナーや研修を行った。性教育の研修では外部講師も呼んだ。ICT では 2 学期に入る電子黒板や Canva の研修を行った。校内研究では授業の系統性の研究を進め、年度末にはまとめを発表したい。

(連携支援 G) (GL)

- ・夏季の研修は昨年度より 30 名の参加者増。進路の情報発信では、職員室前や保護者控室の掲示を工夫し、多くの教員や来校者に見てもらっている。支援室では研修会は 4 校、巡回相談は 14 校 (17 件) で実施し、地域の教育力を上げる取り組みを行っている。

●委員からの質問や意見等

(A委員)

小学部④の地域との連携が「一」になっていることについて。権太坂小学校の 1 年と 3 年に既に授業で来てもらっており、達成ではないか？

(連携支援 GL)

事前学習は連携支援 G が行き、児童間の交流は小学部が行っているため、小学部の活動としては今後進めていく。

(会長)

中学部の進路や性教育の研修について、誰を対象に行ったのか？

(連携支援 GL)

教員向けの研修として行ったと聞いている。進路については、小・中学部の職員を対象に夏休みに行った。

(会長)

保護者も関心があると思う。保護者向けを行えるとよい。

(連携支援 GL)

保護者向け進路研修は、今後 2 学期以降に小・中学部、3 学期に高等部で保護者への学習会を行う予定。状況に応じた情報提供を今後も行いたい。

(B委員)

性教育のことで聞きたい。健常のお子さんの成長曲線とそれに合わせた性教育があると思う。

特別支援学校の子どもの場合、発達と年齢に応じた体の成長に合わせた指導は違いがあるのかどうか？

(教育支援GL)

障害の有無に関わらず、根本は同じ。包括的な性教育と言われ、体のことだけでなく、命を守る・自分・周りを大切にすることを学んでいる。障害のある児童生徒の実態に応じた指導が必要なので、分かりやすく伝えるための教材について検討をしている。

(B委員)

児童生徒の理解に応じて指導をしているということですね。

(C委員)

中学部②について、アセスメントを活用して指導に生かすことの課題はどのようなことか。

(連携支援GL)

連携支援Gと学部で協力して行っている。生徒の理解の状況について調べることがアセスメント、その後実態に合う課題を考えている。太田ステージという検査を使って、発達課題を検討している。授業の教材作りは、実態・系統性・質の担保が必要。アセスメントを生かせるかどうかは、職員の経験等にもよるので、職員間の差が課題としてある。

(会長)

教員間で共通理解を図ることが難しいということでは？様々な特性の中で、個に応じた課題を設定することとその共有が難しいということか？

(連携支援GL)

設定した教材が適しているか、見立てが適しているかなどを検討・判断することが難しい。

(会長)

アセスメントに応じた教材が適しているかはどのように判断しているか？

(連携支援GL)

個別教育計画の中に、課題や取り組みを作成している。評価で達成状況について確認をしている。専門職の協力も得ている。

(会長)

小～高の中で、適切かどうかの見立てを他の人の目も入れて合理的にしていくことが必要。どのように改善していこうとしているかを考えていけるとよい。

アセスメントをやればよいのではなく、行動観察が最も重要なアセスメント。フォーマルアセスメントの結果と合わせてねらいを設定することが大切。チームの中でねらい・目標の妥当性を確かめていく必要がある。専門職への依頼だけではなく、チームで検討していくことが大切。

(会長)

管理運営Gの環境整備事業で教室美化を保護者で行ったとある。よい取り組みだが、保護者やボランティアにどのような気づきがあったのか、家庭への応用などがあったのか？参加された保護者の感想やコメントはどのようなものがあったのか。

(B委員)

今年度は参加できていないが、数年前に参加した。その時は、保護者教員が参加し、交流の一環として行った。教室美化をきっかけとして、普段接点がない方が交流することを目的としていた。ペンキ塗りが始まると、参加者は熱中して黙々と作業する雰囲気になってしまった。終了後に感想を聞くようなことは特になかったと思う。

(教育支援GL)

県から予算がくる事業で、教員・保護者・ボランティアさんと取り組むことで予算がつく。交流目的で実施している。初年度はあっさりした形になっていたかもしれないが、翌年度は終了後に写真を撮ってピフォーアフターを見合ったり、意見交流をしたりということを行った。

(会長)

交流が目的であれば、教室美化だけにとどまらず、障害にどう向き合うかなど参加者がお互い

の理解を深めていく機会につながっていければよいと思う。

(C委員)

全体まとめの高等部の△印。人権は学校づくりとして大切なことだと思うので、今後◎になるような取り組みを進めてもらえればと思う。

(B教頭)

さん付け呼称の課題から△になっている。高等部生徒はもうすぐ成人して社会に出るということもあり、徹底していきたい。他の支援学校でも同様の課題はあると聞かすが、保土ヶ谷支援学校では◎にしたい。

(会長)

障害があることで一つ下に見ていることはないかを考える必要がある。やまゆり園のことを考えた時に、その人となりをとどのくらい共感的に理解できているかが大切。生徒のことを人として共感的に理解することから支援を進めていきたい。やまゆり園では「人となりシート」を使ってその人の理解を進めることを取り組んでいる。どのように△から◎にするかは、県としても大切。

(D委員)

人権研修会を行うように決まっているものか、どのように行ったのか？義務化として行う研修はどのようなものがあるか？法人としても必須の研修は様々ある。

(教育企画GL)

人権研修会は教育企画Gが計画をしている。年度ごとに県から実施方法やテーマが示され、職員参加が義務の研修である。今年度は、校内講師がテーマを設定し実施した。研修担当者が「合理的配慮」をテーマにDVD視聴と小グループでの意見交換の形で研修会を実施した。12月に人権研修会の内容の振り返りの時間を取り、意見交換を行う予定。年度末に、次年度の研修計画を立てて実施している。

(D委員)

法人としての研修を行うなかで、単発ではなく、継続性・振り返りが課題だと思っている。単発ではなかなか伝わらないようなこともあり、法人でも継続性が課題である。継続性を考えながら、引き続き取り組んでほしい。

②切れ目ない支援部会中間報告

(A教頭)

部会メンバーで、第2回ほどがやタウンミーティングについて協議を行った。

○ミーティングから交流の場に変更していく。

少ない人数で話を深めることから、学校を広く知ってもらう機会に。

○神奈川トヨタ自動車の防災イベント・地域の事業所の販売

ホームページや回覧板等で広く周知していく

○名称は「タウンフェスタ in 保土ヶ谷支援」

「タウン」は残し、本校で行うことがより分かるように「保土ヶ谷支援」を入れる。

<タウンフェスタ in 保土ヶ谷支援 実施計画案検討>

(A教頭)

昨年度は年末の平日実施で、参加できる人も限られていた。今年度は多くの方に来てもらえるよう土曜日に行くことを考えたい。

駐車場については、保護者や近隣の方が多く来られるようにグラウンドの開放も考えられるが、プレハブ工事の都合もあり、検討中。

(E委員)

部会で一緒に話し合った。内容はよいと思う。個人的には、その日に都合が悪くとても残念です。権太坂境木自治会でも配付をしたい。

(A委員)

権太坂小学校ではチラシ配布は、配信で行っているのので、データでいただければよい。子どもたちも近いので行くと思う。私自身は、昨年度は冬休み最後の登校日だったので参加できなかった。

(B委員)

日程は改善していただき、保護者も来やすくなると思う。駐車場の開放もあれば、行きやすい。名称も考えていただいていると思う。
学校として行う「ほどがやフェスティバル」は保護者の中で認知度が低い。名前が似ているのでややこしくならないか。工夫を進めてほしい。

(D委員)

地域への認知度を広めたいとのことで、イベント的な内容にしたのはよいと思う。参加者が実際に来ることで、「お互い様」ということがうまく伝わればよい企画になると思う。

(会長)

スタンプラリーや感想コーナーなどの準備はどのように進めているか？

(A教頭)

進路先等の出展者から、「自分たちができること」、「皆さんにしてほしいこと」をそれぞれ掲示してもらい、参加者からも同じように「自分たちができること」を一言書いてもらえるように考えている。子どもも参加できるように、感想を「楽しかった」など当てはまるところにシールを貼ってもらうことを考えている。

(会長)

文字に書いてもらい、参加してもらえるような形を考えたい。交流をどう図るのか？自分もその中の一員として爪痕を残すような、参加するだけでなく一歩進めるようなアイデアがあるとよい。

(F委員)

自治会でも防災訓練からフェスタにしようとしている。気楽に参加できる会合にして、子どもも参加しやすいことを狙っている。

(会長)

参加のハードルを下げるということですね。本番に向けて部会の方はよろしく願いたい。

< 休憩 >

5 協議 重点課題 本校における「進路支援」について

(会長)

切れ目ない支援部会ともつながるが、進路についての意見交換を進めていきたいと思う。

(副校長)

本校の進路支援についてまず進路担当から課題についてお伝えしたい。その後、今後どのように取り組めばよいかのご示唆をいただければと思う。

(進路担当 A教諭)

進路担当5年目 前任校で3年間、本校で2年目。卒業後の進路先に大切につながる気持ちを持って日々取り組んでいる。毎年3年生を送り出すが、毎年違うと感じている。最近では、本人の意思決定を重視していることを企業・福祉ともに感じる。障害のある本人の意思表示の難しさはあるが、本人・保護者の意思を示していただく流れをとっている。高3で年間2回実習を行い、意思決定をしている。

(会長)

毎年違うことの内容はどのようなものか？意思決定やそれ以外でいくつか教えてほしい。

(A教諭)

同じ進路先であったとしても、生徒の人となり・背景が違うところが大きいと感じている。それを

把握して指導を進めていくという点で、毎年違うと感じる。

(会長)

生徒の多様化が顕著であるということか。本人の意思決定を重視するという点について、そうなった背景はどのように考えられるか？

(A教諭)

離職率、離職する理由の大きいものが「先生に言われたから」。企業からもそのように言われることがある。

(会長)

本人・保護者の中での意思決定を考える時に、本人の関与・マインドの形成をどのように考えていくかが、進路支援のテーマだということだと思う。委員からお気づきの点をフリーに意見交換をお願いしたい。

(A委員)

課題は離職率の高さか、意思をうまく表示できないということか？

(A教諭)

離職率を学校でまとめたデータは今はないが、卒業後3年間はアフターフォローしている。離職が多いというわけではなく、理由として「先生に言われたから」となることがある。

(連携支援GL)

3年間の定着は7割ほどだと思う。率よりも理由が大きい。人に決められたということなので、自分の意思を大切にしたい。

(A委員)

実習の機会は2回とのことだが、機会を増やすなどの傾向はあるのか？

(A教諭)

1・2年でも実習を行っており、その中で検討している。

(D委員)

本人の意思を大切にしている傾向について話があった。「意思決定支援」についてはR5から県もガイドラインを作り、ハンドブックの作成や研修なども行う流れがある。離職率については、生活介護事業所の法人として感じることは、流れが変わって、5年前ごろから就労に保護者の考え方が移行している傾向がある。生活介護の利用から仕事に行く・社会に行くことに保護者の意識も変わってきているように思う。生活介護はご本人に合わせた支援で、ゆるやか。就労の場合はそれとは違うので、頑張りすぎた結果に生活介護に流れてくることもある。本人の意思を大切にすることは大切。本人がここに行きたいと決めることを大切にしている流れがある。

(会長)

意思決定に関連して、地域も以前と変わってきていると思うが、民生委員の経験からどうか？

(E委員)

子どもの人権が言われた時期から、子どもの人権を大切にすることは地域の人もわかり始めたと思う。子どもの意思を尊重し、耳を傾けることもできるようになった。

(会長)

民生委員としては、そのようなことが難しい例も見ていると思うがどうか？

(E委員)

障がいのある方の支援を通じて、生活を支えることは難しいと感じている。その方には花屋になりたいという希望があり、実現の難しさはあるが、希望を持っていることは大切だと思う。

(F委員)

問題点を抱えながら生活する中で、どう立ち向かうかということ。思うように意見は吸い上げられないこともある。本人の意思に注意しながらやっていきたい。

(C委員)

学校で手厚い支援をすればするほど、「先生に言われたから」にならないか？と思う。生徒の特

性を踏まえて様々な支援をしている。就労につながる支援を手厚くしていると想像する。その裏返して、「先生に言われたから」になっていないかと思う。先生方は大変だし難しいと思うが、それをあくまでも本人の意思と思えるようにどのように進めていけるかを、私も学びたいと思う。

(B委員)

4年ほど運営協議会に関わっているが、就労・就職率の話はこれまでもずっと出てきている中で、「先生に言われたから」となっていることを受け止める必要があるのではないかと。就職させないと、ということが教員・保護者のプレッシャーになっていないかということはあると思う。

(会長)

就労に前のめりになっていることもあるとは思いますが、生徒の多様化の中で、知的障害のある自閉症の方と発達障害の方が分教室を中心に多い。身の回りのことを自身で選択決定するということを、これまでにどれだけしてきたか。生活をマネジメントしていくことが弱かった背景を考えないといけない。知的障害教育は、もともとは生活に根付くことが大きなねらい。その中で、日常生活への関与がどのようにこれまで行われてきたのか？それがいい中で、就労についていきなり「どこがいいか？」を選択するのは難しい。日常生活と生活の中で自らの関与を高めることがないと、選ぶ・決めることへの戸惑いや恐れにつながる。小学部やもっと前の段階から、日々の生活の中で主体的に関与する・参加することを高めていけるかを大切にできるとよい。

(会長)

今後どのように学校や進路担当として向き合っていこうと思うか？

(A教諭)

「働くとは何か？」という話を学校でしっかりしてほしい、と事業所から言われたことがある。生活介護や就労B型などどの進路先の生徒にも、働くということを職業の時間などを通じて落とし込んでいきたいと考えている。

(会長)

職業だけでなく、日常のお手伝いや役割を持つことなども含めた活動から、働くことの意味付けができればよいと思う。進路担当や高等部に限らず、小・中学部にも関わることである。

(A教諭)

学校全体の課題として、意思決定について小・中学部からのつながりを含めて考えていきたい。保護者の方には、進路先についてまずは知ってもらうことを考え、12月のタウンフェスタでは進路先のブースを設け、説明も聞けて販売も一緒に行う形で行いたい。

(会長)

進路に限らず、学校としてどのように意思決定を考えていくかが大きな課題。その問題提起として話題提供をいただいた。今日の議題としては、終了としたい。ありがとうございました。

6 事務連絡

(副校長)

ご意見をいただいた中で、児童生徒が選択をしていく、家庭・学校での生活で自分が選択をしながら生活することを積み重ねていくことを、自立と社会参加を見据えて学校全体で学部・グループで取り組んでいきたい。

次回は、12月10日(水)舞岡分教室で実施する。時間等は後日ご案内する。

第4回は2月26日(木)を予定している。

以上